

1:1 キリスト・イエスのしもべである、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。

1:2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:3 私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝しています。

1:4 あなたがたすべてのために祈るたびに、いつも喜びをもって祈り、

1:5 あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。

1:6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。

1:7 あなたがたすべてについて、私がこのように考えるのは正しいことです。あなたがたはみな、私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵みにあずかった人たちであり、そのようなあなたがたを私は心に留めているからです。

1:8 私がキリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがたすべてを慕っているか、その証しをしてくださるのは神です。

1:9 私はこう祈っています。あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、

1:10 あなたがたが、大切なことを見分けることができますように。こうしてあなたがたが、キリストの日に備えて、純真で非難されると

ころのない者となり、

1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされて、神の栄光と誉れが現されますように。

パウロはピリピの人々を「思うたびに…感謝し」とあります。そのような歩みができるクリスチャンは素晴らしいものです。またそのような人は教会の宝であり、神さまご自身の喜びです。

そのような人は神様の視点に立っています。そしてその生きざまは「福音を伝えること」です。また「伝えることにあずかる」という行動です。それが間接的にであっても、そのような生き方は教会の指導者や神さまの喜びなのです。

現在もさまざまな良い働きにあずかっている方もいるでしょうが、それは「良い働きを始めた方」によるのであって、すなわち主ご自身によるのであって、尊い働きなのです。福音を広めることに何らかのかたちで関わっているなら、自分が尊い働きをしているということに感謝し、また誇りを持ちましょう。

パウロはピリピの人々のために熱心に祈っています。私たちもきっと誰かに祈ってもらってこそ、今の信仰と働きがあるのに違いありません。感謝し、謙遜になり、また他の人のためにも祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

